

公益法人 第11期

2021（令和3）年度

# 事業計画書

2021年4月1日から

2022年3月31日まで

公益財団法人

ベルマーク教育助成財団

## 《総説》

ベルマークには公益財団法人として認められた事業が2つあります。

公益事業1は、参加団体（PTA）がベルマークを集め、自校の設備を充実してもらうことを財団がお手伝いします。ベルマーク運動の本体ともいえます。

公益事業2は、事業1にともなって発生する財団への寄付を原資にして、生徒数が少なくマーク集めが困難であるへき地校、災害被災校、病院内学級等に財団が教材を寄付します。ベルマークは事業2を実施するために、事業1の仕組みとともに1960年に始まりました。

事業1、事業2の継続が財団の使命です。コロナ禍の影響が2021年度も続く可能性を見据えつつ、安定経営のため、財務体質強化に努めます。

## 《現況》

前提となる現況は以下のとおりです（団体数は直近）

参加団体（学校等） 26,475 団体(2021年1月末現在)

協賛会社（市場調査費提供会社） 52 社(2021年1月現在)

協力会社（教材販売および寄付） 14 社(2021年1月現在)

財団職員数 常勤 26 人(2021年1月現在)

財団の事務所移転 6～7月に移転の計画

以上を前提に、2021年度の基本方針は以下のようになります。

参加団体が1年間に集める点数 2億7000万点／年度

参加団体が購入する教材費 3億円／年度

財団がへき地校、被災校、養護学校等に援助する支払い寄付金 3250万円／年度

財団経常費用予算 2億7510万円

## 《公益事業1》

・ 目標とする集票点数 2億7000万点／年度

➢ 対前年度予算比 70.1% -1億1500万点

➢ 対前年度実績（予測）比 93.1% -2000万点

参加団体（学校等）によるベルマーク集めの総計を上記のように設定します。

2020年度は前年度予算比±0点の3億8500万点と見積もりましたが、コロナ禍での財団の休業、送られてくる点数の激減などの影響で予算を大きくマイナスし2億9000万点と大きく落ち込む見込みです。この数字は、2019年度からの点数在庫・約1億4000万点を含んだ数字でした。2021年度は前年度ほど在庫を翌年に送ることができないこと、まだコロナの影響が残ることが予想されること、協賛会社の4社（岩塚製菓、ファミリーマート、クラレトレーディング、BRITA Japan）が2021年度に脱退の意向を示していることなどから、前年度を下回る目標としました。

・ 参加団体数の想定

➢ 参加団体（学校、公民館、図書館等）数については、学校の合併等の自然減が続いていますが、広報活動による新たな加入もあり、概ね前年度並みを目標にします。

- ・ 参加団体のお買いもの額の想定
  - 約3億円／年度（2020年度比79% - 1億6000万円）
  - お買いもの額の10%に相当する額が、協力会社（教材販売会社）から、財団の支援事業（公益事業2）の原資として寄付されます。2020年度はコロナの影響でPTA活動が止まったことから前年度比80%で推移しました。2020年度は集票点数の落ち込み（70%）にくらべてお買いものへの影響は相対的には小さかったのですが、集まった点数を受けてのお買いものであるため、2021年度の方がお買いものへのマイナス影響は大きいと予測しています。
- ・ 協賛会社数
  - 2021年度4月1日時点での予定社数 48社（詳細は報告6）
- ・ 協力会社数
  - 2020年度4月1日時点での予定社数 13社（詳細は報告6）
- ・ 新規企業への訪問と勧誘
  - 引き続き、ベルマークにふさわしい企業に協賛会社に入っただけのような勧誘活動をしていきます。
- ・ ベルマーク運動説明会
  - ベルマーク運動説明会は、学校の新学年にともなってPTAを担う新役員に向けて、ベルマークの集め方と使い方を職員が説明するものです。2020年度は94会場を予定していましたが、コロナのために全会場中止となりました。2021年度についてもかなり厳しい情勢ですが、全国12カ所で開催することができないか準備を進めています。（報告5に詳細）
- ・ 刊行物
  - ベルマーク活動報告書
    - ◇ 2017年度からベルマーク財団の活動を分かりやすく紹介した「活動報告書」を刊行しています。ベルマークの「今」が一目で分かる、と協賛・協力会社にも好評です。毎年リニューアルし、対外PRに積極的に活用していきます。
  - ベルマーク新聞
    - ◇ 2018年度からデジタル化に踏み切りました。それに伴い、従来の年4回発行から、毎月発行に改め、フレッシュで楽しいメディアを目指しています。
  - 財団ホームページ
    - ◇ 支援先の学校から、子どもたちの元気な写真が送られてくるたびに、ホームページで紹介しています。財団の活動もどんどん発信しています。また、協賛・協力会社にとっても魅力的なページとなるよう、企業情報も積極的に掲載しています。
- ・ 学校外での集票
  - 寄贈マークの拡大
    - ◇ 企業や自治体、個人から、財団に直接届くベルマーク（寄贈マーク）は

到着件数ベースでコロナ禍でも前年度を上回っています（前年度比110%）。コロナ禍でもできるボランティア活動はないかと考え、新たにベルマークに取り組んでくれた企業の報告なども届いています。

- ・ ベルマーク大使の活用
  - 2015年12月に任命した7人の大使に加え、2018年に新たに6組9人に大使にご就任頂きました。地域での運動の牽引役、熱心な協賛会社の方、発信力のあるタレントさんなど多彩な顔ぶれです。それぞれのお仕事、生活の場で、ベルマークの普及、応援にお力添えいただきます。

## 《公益事業2》

コロナ禍の影響で大きく予算を減らしています（2021年度 3250万円 前年度比60.1% -2100万円）。そのため各項目で削減の方向で見直しています。

- ・ へき地校援助費
  - ベルマーク運動の原点ですが、学校数は減らさずに、金額を絞り援助することにします（100校に各25万円相当→100校に各20万円相当に変更）。
  - 一輪車や理科実験等の教室事業についても、240万円から200万円に削減しますが、こちらは、コロナ禍の影響で、実施できない学校があると想定されるためです。
  - あわせて総額1660万円を計上します。
- ・ 特別支援学校等援助
  - 盲・ろう・養護学校・病院内学級、海外日本人学校への援助も、前年度比84%に削減します。
  - 海外支援団体向け援助（友愛援助）についても前年度比70%に削減します。
  - あわせて総額1060万円を計上します。
- ・ 東北被災校支援
  - 財団予算から約300万円を用意します。東日本大震災から10年経過したことを踏まえ予算ベースでは、2020年度からは約700万円減少しますが、寄贈マークなどを充当していきたいと思えます。（詳細は報告1）
- ・ 緊急災害援助
  - 突発的な災害被害については財団予算から230万円を計上します。こちらも寄贈マークや友愛援助などによって、実質金額は変動します
- ・ ジブラルタ生命から寄付申し出
  - へき地校向けの教室事業の充実に100万円の申し出を受けています。上記予算に算入します。
- ・ ミズノ財団からの寄付
  - 毎年100万円をいただいております、走り方教室等の費用に算入します。

《財団運営》

- ・ システム改修
  - 残高照会システム
  - マークの仕分け作業の簡素化
  
- ・ 事務所移転
  - 家賃削減のために事務所移転を予定します。